

個別の指導計画の活用状況と自立活動の指導に対する教師の意識

—小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に焦点を当てて—

NISE

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 自閉症教育班

問題と目的

○小学校学習指導要領(平成29年告示)
・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の**作成・活用の義務化**
・特別支援学級における**特別的教育課程**:障害による学習上または生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動を取り入れること**

○自閉症・情緒障害特別支援学校に在籍する自閉症のある子ども
:人とかかわりを円滑にし、生活する力を育てるため、特別的教育課程として**自立活動を取り入れた指導が重要**



○公立小学校の個別の指導計画の作成率:95.9%(文部科学省、2018)

しかし!個別の指導計画はどの程度活用されているか?

個別の指導計画の**作成・活用**において感じる**困難**は?

個別の指導計画の**作成・活用**が**自立活動の指導**に対する**認識**とどのような**関連**があるか?

本研究では、小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある子どもの指導を担当する**教員が、個別の指導計画の作成や活用について感じる意義と悩みと、自立活動の指導の意義と悩みとの関連性を検討する**

結果及び考察

1. 回答者の指導年数

	自閉症・情緒障害特別支援学級指導年数	自閉症の指導年数
1年未満	123名(22.6%)	131名(24%)
1~5年	276名(50.6%)	268名(49.2%)
6年以上	146名(26.8%)	146名(26.8%)
平均年数	4.1年(SD=4.3)	4.2年(SD=4.8)
range	0~30年	0~30年

2. 個別の指導計画の作成有無及び作成の意義と悩み

1) 個別の指導計画の作成有無

作成している人	作成していない人
539名(98.9%)	6名(1.1%)

2) 個別の指導計画を作成している人が感じる作成の意義と悩み



図1 個別の指導計画作成の意義に関する各項目の回答得点の平均値

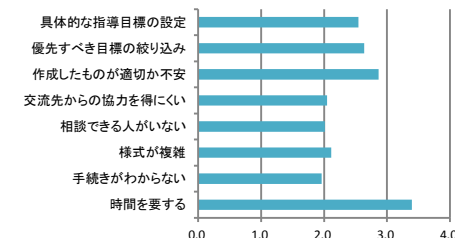


図2 個別の指導計画作成の悩みに関する各項目の回答得点の平均値

●個別の指導計画の作成意義や悩みと、特別支援学級の指導年数や自閉症の指導年数との関連を分析した結果、有意な差はみられなかった

<(意義)F(2,536)=0.00,n.s./F(2,536)=0.24,n.s.

(悩み)F(2,536)=2.20,n.s./F(2,536)=1.55,n.s.>。

方法

○対象及び調査方法:3県の自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している小学校1,067校に郵送によるアンケート調査を実施。自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員に回答を依頼した。

○調査期間:平成30年10月~11月

○分析対象:608校(回答率:57%)から回答があった中、不備データを除いた545校(有効回答率:51.1%)を分析対象とした。

○倫理的配慮:当研究所の研究倫理審査委員会での許可を得て実施。調査票には、学校名や個人名が特定できないように処理することや本調査以外の目的には使用しないこと、調査用紙への回答をもって調査協力の同意とみなすことを明記した。

○アンケート調査内容:①自閉症・情緒障害特別支援学級の指導年数及び自閉症の指導年数、②個別の指導計画の作成有無と作成において感じる意義と悩み、③個別の指導計画の使用状況(活用)と、使用の際に感じる悩み、④自閉症のある子どもの自立活動の指導において感じる意義と悩み。

各意義や悩み、個別の指導計画の使用状況に関しては、「とてもあてはまる」(4点)~「あてはまらない」(1点)の4件法を用い、得られた得点を点数化した。

○分析:①個別の指導計画の作成の意義と悩み、活用状況と悩み、自立活動の指導の意義と悩みの各項目の得点の平均値を算出

②各種の指導年数(1年未満/1年~5年/6年以上)と個別の指導計画の作成の意義と悩みとの関連の分析するため、1要因の分散分析を行った。

③個別の指導計画の使用状況に関する項目の回答の平均値が、3点以上の群を「積極的に活用している群」に、3点未満の群を「積極的に活用していない群」に分け、個別の指導計画の活用と自立活動の指導の意義と悩みとの関連を分析するために、t検定を行った。

3. 個別の指導計画の活用状況と活用の悩み

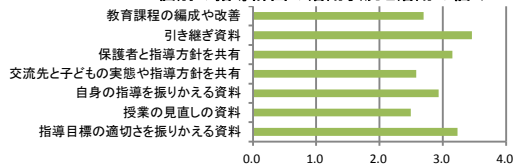


図3 個別の指導計画の活用状況に関する各項目の回答得点の平均値

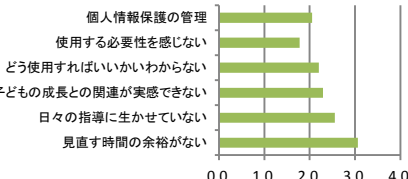


図4 個別の指導計画の活用の悩みに関する各項目の回答得点の平均値

●個別の指導計画の活用状況や悩みと、特別支援学級の指導年数や自閉症の指導年数との関連を分析した結果、有意な差はみられなかった <(活用状況)F(2,536)=0.03,n.s./F(2,536)=0.21,n.s. (悩み)F(2,536)=0.15,n.s./F(2,536)=1.21,n.s.>。

4. 個別の指導計画の活用と自立活動の指導の意義と悩み

	積極的に活用している群(n=267)	積極的に活用していない群(n=272)
自立活動の指導の意義に関する各項目の回答得点の平均値	M=3.32(SD=0.42)	M=3.10(SD=0.42)
自立活動の指導の悩みに関する各項目の回答得点の平均値	M=2.52(SD=0.54)	M=2.72(SD=0.47)

作成の意義は感じているのに、積極的に活用する人は、49.5%

○個別の指導計画を積極的に活用している群の方が、自立活動の指導の意義に関する回答得点の平均値が高く(t=6.10, df=536.92, p<.001)、積極的に活用していない群の方が、自立活動の指導の悩みに関する回答得点の平均値が高い(t=4.62, df=523.14, p<.001)

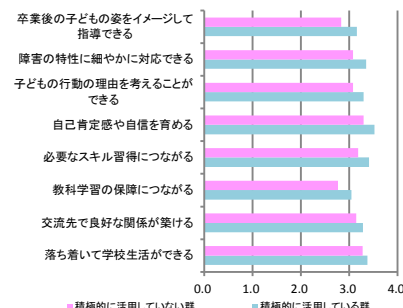


図5 個別の指導計画の活用有無群における自立活動の意義に関する各項目の回答得点の平均値

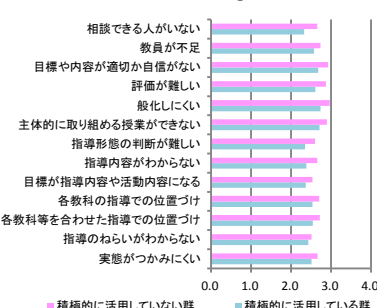


図6 個別の指導計画の活用有無群における自立活動の悩みに関する各項目の回答得点の平均値

○年度や学期毎の「子どもの実態の整理」や「指導目標の適切さを振りかえる」だけではなく、**日々の授業で子どもの実態を整理し、随時指導目標の適切さを振りかえるために、個別の指導計画を活用することが必要**

○個別の指導計画を活用を通して、自閉症のある子どもの**実態をより整理にし、自立活動の指導目標や指導内容を明確**にしていけることが重要